

防災力 見直してみましよう。



飛騨地域は、昔から水害が多く、平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨と、近年は梅雨時期に大きな災害が発生しています。台風等が多く発生する季節を迎え、今のうちから災害に備えた準備を進めましよう。



個人・家庭での備えを確認ましよう

(1) ハザードマップで自宅まわりの危険、避難場所を確認ましよう

洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップを見て、自宅まわりと避難場所の浸水や土砂災害のおそれの有無、どの程度の浸水が予測されているのか、土砂災害は黄色や赤色の表示になっていないか、避難経路は大丈夫か、迂回経路はあるか等を確認ましよう。

自宅まわりに災害の危険性がない場合は、在宅避難をましよう。この際、自宅内ではできるだけ、2階以上（垂直避難）で、山とは反対側の部屋に避難ましよう。

自宅まわりが危険な場合は、避難場所等への避難（水平避難）のほか、知人・親戚宅、ホテル・旅館への避難や、状況により車中泊による避難も検討ましよう。危険な地域から安全な地域に早めに、明るいうちの避難を心がけましよう。



(3) 家族で話し合いましよう

自宅や学校・勤務先、避難場所等への避難経路や互いの連絡手段を確認ましよう。

家族が在宅避難する場合や避難場所等へ避難する場合の、家族に必要なもの（妊婦や乳幼児、老人、身体の病気・障がいの状況等）を話し合い、平素から準備ましよう。



災害時の避難行動

自分や家族の置かれた状況に応じて、避難行動を選択ましよう。

重要

土砂災害
洪水災害

原則 ①垂直避難 加えて、
②山とは反対側へ

☝

① 垂直避難
まずは

次に ② 山とは反対側へ

水平避難の指示があったら、安全なうちに早期に避難ましよう。
非常持ち出し品を持ち、公民館や親戚・友人宅へ避難してください。

自宅

公民館等

親戚や友人宅

水平避難をする時は

(2) 避難する準備をしましょう

2階等へ垂直避難する場合は、避難する家族の状況によって、準備するものが異なります。家族だけで避難できるか、近所の方や消防団の支援が必要かどうか検討し、必要ならあらかじめ支援をお願いしておきましょう。

洪水にあった場合等は、2日程度はそこで避難生活を送ることになりますので、水・食料、着替え、携帯トイレ、薬、ミルクやおむつ等、家族の状況に併せ、必要なものは、あらかじめ2階にも準備しておきましょう。

避難場所等に水平避難する場合は、家族の状況に併せ、非常持ち出し袋等を準備しておき、一度避難したら取りに帰らなくていいようにしましょう。



(4) その他

避難場所等に避難する際は、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク、石鹸（又は消毒液）、タオル等を多めに携行しましょう。



レベル
4

避難指示で必ず避難を。

警戒レベル	新たな避難情報等	
5	災害発生又は切迫	さんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保
~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~		
4	災害のおそれ高い	ひなんしじ <b>避難指示</b>
3	災害のおそれあり	こうれいしゃとうひなん <b>高齢者等避難</b>
2	気象状況悪化	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報 (気象庁)

- 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5 緊急安全確保の発令を待ってはいけません！
- 避難勧告は廃止されました。これからは、警戒レベル4 避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。
- 避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、警戒レベル3 高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

災害時の緊急情報を受け取りましょう



市公式 LINE

登録者に緊急情報を発信します。

「飛騨市」と友だち検索していただくか、下の QR コードを読み取って友だち追加します。



飛騨市役所

追加

トーク



LINE 利用画面



ほっと知るメール

登録者に緊急情報を発信します。

下のメールアドレスまたは下の QR コードから空メールを送信してください。

[t-hida-city@sg-p.jp](mailto:t-hida-city@sg-p.jp)

PC・スマートフォンの場合



ガラケーの場合



メール利用画面



防災行政無線

ご自宅の戸別受信機や市内各所の屋外スピーカーから情報をお届けします。同報無線放送電話サービス (☎0577-62-9900 ※通話料無料) から同じ内容を確認できます。

市ホームページ

緊急情報や避難・通行止めなどの情報、ハザードマップも発信しています。



市防災 Facebook

緊急情報をリアルタイムで発信します。



## 地区防災力を高めましょう

### (1)互近助（ごきんじょ）は、地区防災力の基本です

隣同士や向こう三軒両隣など目の届く範囲の結びつきや顔の見える近隣共同体が機能してこそ、自主防災組織を支えることとなります。日頃から地域の方との交流を保つことを心がけましょう。

### (2)行政区＝自主防災組織です

災害時、どこに集合し、どこに避難するのか、お互いの安否確認はどうするのか、地区防災計画を作っておきましょう。

### (3)災害時の備蓄を確認しましょう

各行政区には、平時からアルファ化米、水、備蓄用毛布、救難具を配備しています。保管場所を確認しておきましょう。アルファ化米、水は、概ね5年ごとに更新をします。

### (4)市の補助制度を使って、防災体制を整備しましょう

区の防災用品の購入、防災訓練の実施、地区防災計画の印刷には、市の補助制度があります。危機管理課または最寄りの振興事務所にお問い合わせください。



## 防災士資格を取得しよう

### (1)市では、毎年12月から2月頃にかけて「飛驒市防災リーダー養成講座」を無償で開催しています

防災士教本に基づき、4日間にわたり開催され、岐阜大学、富山大学等の防災専門の先生方が講師として参加します。最終日には、日本防災士機構により防災士資格の試験が行われます。

### (2)防災士資格取得に関する市の補助制度

市では、教本代、防災士受験料、防災士の登録料の補助を行い、市民であれば、実質無料で防災士資格が取得できます。

### (3)防災思想の普及

防災士資格の取得後も、定期的な勉強会や市防災士会員による小学校での防災授業の実施など、地区の防災活動のリーダーとして活躍しています。



## 市内小中学校で防災教育を行っています

市は、関係機関と連携して市内小中学校での防災教育を進めています。

昨年は古川土木事務所の協力を得て、「防災、災害」をテーマに授業を実施。古くからの防災の知恵（霞堤）や防災活動、災害時の対応等を学ぶ座学や防災ダムの視察などを行いました。

今年度も各小中学校で地域の特性に合わせた防災教育に取り組んでいます。

古川中学校では、教育プロジェクト支援事業を行う株式会社E d oの協力で全10回にわたる防災教育を実施しています。座学の他、災害から身を守るシミュレーションゲーム「風水害24」等も活用し、災害を擬似的に体験。刻々と状況が変わる中で、自分や家族、周囲の人の命を守るための行動について考えます。体験した2年生の水尻湧月君は「ゲームを通して災害の時に自分がすべきことを学びました。体験を生かして、自分の命を守ることと人を助けることのバランスを考えていきたい」と感想を話していました。

